

# 福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

## さくらの郷みらい保育園

横浜市緑区鴨居 4-52-15

運営主体：株式会社みらい

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5～6 ページ
分類別評価結果	7～18 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	19～25 ページ
利用者本人調査分析	26～28 ページ
事業者コメント	29 ページ

2013 年 4 月 16 日公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

## 実施概要

事業所名	さくらの郷みらい保育園（保育所）		
報告書提出日	2013年3月11日	評価に要した期間	6ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

## 評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 2012年10月1日～2012年11月30日</p>	<p>職員会議で趣旨・目的などの説明後、全員が一人ずつ自己評価票に記入した（全員に評価の手引きを配布）</p> <p>各個人が記入したものに、園長・主任が目を通した後、休日出勤日を設け、全体を5グループに分け、1項目ごとにグループで話し合い、グループでのまとめを作成した。</p> <p>5グループのまとめをもとに、園長・主任・評価担当職員で話し合い、一つにまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 2012年11月1日～2012年11月15日</p>	<p>全園児の保護者（80世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日：第1日 2013年1月16日 第2日 2013年1月21日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：朝、避難訓練の様子を観察後、各クラスで保育観察。 昼食：4歳児および5歳児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：書類調査。園長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。 昼食：2歳児および3歳児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：各クラス担任保育士6名、栄養士1名、地域育児支援担当職員1名、障害児支援担当職員1名、非常勤職員1名に個別に面接調査。その後、園長・主任に面接調査。最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日：第1日 2013年1月16日 第2日 2013年1月21日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

## 総合評価（評価結果についての講評）

### 【施設の概要】

さくらの郷みらい保育園は、JR 横浜線「鴨居」駅から徒歩約 6 分、県道 109 号線鴨居大橋南側の道路沿いにあり、2009 年（平成 21 年）4 月、株式会社みらいにより開設され、さらに、約 150m 離れた場所に、2010 年（平成 22 年）4 月、分園が開設されています（以下、本園、分園と称します）。なお、同社は、当保育園のほか、学童保育所、こども英会話などを行っている「親子わくわく教室 みらいポケット」を運営しています。

本園の施設は、4 階建てビルの 1 階にあり、保育室（1 歳児～5 歳児）・事務室から成り、園庭は 1 階のほか屋上にもあり、滑り台・鉄棒・たいこばし（大型雲梯）を備えています。2～4 階は有料老人ホーム「さくらの郷」となっていて、厨房は保育園・老人ホーム共同で、調理は外部業者に委託しています。

分園は 5 階建てビルの 1 階にあり、0 歳児保育室となっています。建物のすぐ隣に公園があり、0 歳児の外遊びの場所となっています。本園・分園とも、内装や子どもたちが触れる家具備品・おもちゃ・生活用品などは、できるだけ木製品を使用しています。

定員は（本園・分園合わせて）90 名（0～5 歳児・産休明け保育あり）、開園時間は、平日 7:30～20:30、土曜日 7:30～18:30 です。

「保育への思い」を、入園のしおりに次のように記載しています。「大きな輪の中で さくらの郷みらい保育園では、子どもたちが毎日使う家具やおもちゃの一部を、横浜市内の障害者地域作業所の方々に、ひとつひとつ、丁寧に作っていただきました。私たちは、保育園の子どもたち・保護者・お年寄り・障害をもった方たちも、全てのひとが、この社会の中で、それぞれの役割を持ちながら生きていることを共感しながら、ひとつの大きな輪の中で、命に寄り添う保育を行ってまいります」

これに基づき、保育理念を「こども一人一人を大切にし、保護者との信頼関係を築き、地域に根ざした保育園を目指す」とし、保育方針を「豊かな心と思考力をもち、伸びやかな自立心を育てる」と定めています。保育目標は「・健康で生き生きした子ども ・おいしく楽しく食べる子ども ・意欲的に取り組み創造する子ども ・物を大切にし、思いやりのある子ども」としています。

### 高く評価できる点

#### 1、子どもたちは、自分の思いを尊重され、元気に遊び、さまざまなことを学んでいます

子ども本人のしたいことや遊び込む時間を十分に確保した保育が行われています。各保育室には、子どもの発達に合わせてさまざまなおもちゃや遊具、絵本などが用意され、一人で好きなことに熱中したり仲間と一緒に遊んだり、自分の思いのままに元気に過ごしています。異年齢児同士の交流が盛んで、朝夕の自由時間以外に、給食（4・5 歳児が合同）、午睡（2・3 歳児、4・5 歳児がそれぞれ合同）のほか、3～5 歳児で縦割りのグループを作って年間を通して散歩や行事の活動を行っています。

一斉活動の時間では、保育士は「何をしたい？」「どのようにしたい？」などと、子どもたちに聞き、意見や発想を柔軟に取り入れています。5 歳児の「味噌づくり」では、ビニール袋に入れた豆を潰す時、「袋、破れないかな」という子どもの言葉で、すぐに保育士が袋を 2 重にする場面が見られました。また、園外への散歩では、子どもが「雪」「トラック」「バス」など見えたものを言うと「まだ、あるね」「ほんとだね」など、一人一人に応じています。朝の集まりでの体操でも、「何の曲が良い？」と保育士が聞くと、「〇〇！」と子どもたちが応え、CD の音にあわせて一斉に真剣に身体を動かします。2～5 歳児は、リズム運動の時間があり、年齢と発達に合わせたダンスや体操をしています。

天気の良い日には、近隣の公園や河原へ散歩に出かけたり、屋上や 1 階の園庭での遊びに興じたり

しています。屋上園庭での遊びでは、数日前に降った雪が残っていましたが、滑り台を滑ったり、雪を丸めて投げたり、凍った雪片を手に取り「ご飯です」「魚です」など子ども同士で見せ合っていて楽しんでいます。散歩の時に興味を持った植物や昆虫について、園に帰ってから子どもたちは図鑑や本で調べています。5歳児は、卵からかえったカブトムシに名前をつけて保育室で飼育し、命の大切さや生き物への親しみを感じられる経験をしています。

園庭の一隅では、トマト、ピーマン、大豆などの野菜や、花の栽培を子どもたちがしています。種や苗の植え付け、水やり、収穫などの体験を通して、子どもたちが植物を育てることに喜びを感じられるようにしています。また、育てた野菜を使ってカレーづくりの体験をしたり、大豆を味噌づくりに使ったりして、食育につなげています。

また、「英語遊び」の時間が月1~2回、1~5歳児の各クラスで行われています。講師は全く日本語使わずプログラムを進めますが、年齢の小さい子どもたちも、歌を歌ったりダンスをしたりしながら楽しんでいます。

## 2、職員は、一人一人の子どもを大切にしたい、より良い保育を目指しています。

全職員が、一人一人の子どもの配慮すべきことや状況などを把握し、子どもの気持ちを理解し個別に対応しています。この背景には、全体会議・月案会議・週案会議などで十分に情報交換が行われていること、気がついたことはすぐに提案できたり、職員同士で気軽に言い合えたりする良い雰囲気であることが挙げられます。

また、外部研修に参加した職員は、全体会議で報告し、情報を全職員で共有し、日々の保育に活かしています。さらに、全職員が、毎年「目標管理シート」により、保育業務・能力開発について自己目標を設定し、園長との面談・振り返りを行い、常に向上を図っています。年2回の自己評価表の項目に沿って、勤務基本姿勢・協調性・子どもや保護者への対応などについてチェックし、反省点や今後の取り組みなどを記しています。

このような取り組みを通じて、一人一人の子どもを大切にしたい、より良い保育を目指しています。

## 3、地域との交流を大切にしています。

子どもたちが、園建物の上階にある有料老人ホームを訪れて、お年寄りと一緒に遊んだり、園の行事である運動会や「敬老交流会」、「おいもをおいしく食べる会」、味噌づくり、生活発表会などにお年寄りを招待したりしています。また、ボランティアの人たちが訪れて、ハーモニカの演奏、大型絵本の読み聞かせなどをしてきています。さらに、4・5歳児が、種から育てた花の苗を、地域の公園愛護会の人たちと一緒に、近隣の公園に植えています。散歩のとき、校庭で遊んでいた中学生が子どもたちに声をかけてくれ、子どもたちも手を振って応えている場面も見られました。

地域の子育て支援では、育児相談を、月~金曜日の10~15時に実施していて、園長と主任が面談や電話で応じています。また、地域支援担当保育士を配置し、「親子で遊ぼう」「えいごで遊ぼう」をそれぞれ月1回開催しています。その際にも育児相談に応じています。

### 今後期待される点

#### 保護者とのより密接な情報交換

園では、全クラスで毎日連絡ノートを用いて、一人一人の子どもの園での様子などを保護者に伝えていきます。また、園内のクラス掲示板に、連絡事項やその日の活動を書いたり、写真を貼ったりして、保護者に情報を伝えています。さらに、月1回、「園だより」「給食だより」を発行しているほか、園

のホームページに「写真だより」のコーナーを設け、子どもたちの生き生きとした様子を伝えるようにしています。

しかし、家族アンケートでは、園と保護者との連携・交流の設問で、「送り迎えの際の子どもの様子に関する情報交換」および「保護者懇談会や個別面談などによる情報交換」の項目は、「不満」「どちらといえば不満」と回答している保護者が20%を超えています。

アンケートの意見欄の記述からは、送り迎えのときに関して、連絡ノートや掲示での情報提供だけでなく、一言で良いから、子どもの様子を保育士から直接聞きたい、という保護者の意向が伺えます。

また、「保護者懇談会が1月なので、4～6月中にもやって欲しい」「年2回くらいはやって欲しい」「個別面談をして欲しい」などの声から、園からの情報やクラスの様子などを担任から直接話を聞きたい、他の保護者と話をする場が欲しい、家庭や自分の子どものことなどでじっくりと話をする機会が欲しい、などの要望が汲み取れます。

このような保護者の要望にどのように対応するかを検討し、保護者との情報交換を密にし、連携を深めて行くことが期待されます。

## 評価領域ごとの特記事項

このページは、かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って記載しています。

### 1、人権の尊重

- ・保育理念を「こども一人一人を大切にし、保護者との信頼関係を築き、地域に根ざした保育園を目指す」としています。理念に基づき、保育方針を「豊かな思考力を持ち、伸びやかな自立心を育てる」、保育目標を「・健康で生き生きとした子ども ・おいしく楽しく食べる子ども ・意欲的に取り組み創造する子ども ・物を大切にし、思いやりのある子ども」と定めています。
- ・子どもに罰を与えたりはせず子どもの自尊心を大切にすることを、子どもの人権尊重について記載のある運営規定や研修会などを通して、全職員が認識しています。
- ・子どもに威圧感を与えず一対一で話をする必要がある場合や、子どもが友だちに知られたくないことを話したい時には、廊下や老人ホームのロビー、事務室などを利用して、プライバシーに配慮しています。
- ・個人情報の取り扱いについてガイドラインをつくり入職時に全職員に配付し、ボランティアや実習生にも事前のオリエンテーションで説明しています。職員と実習生は守秘義務や個人情報の取り扱いについての誓約書を提出しています。

### 2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・各保育室に空調設備を設置し、適正な温度に保っています。また、各保育室や廊下などには床暖房設備が設置され、冬期でも暖かく、子どもたちは裸足で過ごしています。
- ・段ボール製の手づくり仕切りや、移動可能な小さな棚、クッション、マットなどで必要に応じてコーナーをつくり、小集団活動が行われるよう、保育室の使い方を工夫しています。
- ・子どもの自由な発想やアイデアを大切に、集団活動に取り入れています。例えば、子どもの声からアレンジしたゲームを取り入れたり、子どもたちの好きな絵本を生活発表会の演目に発展させたりしています。
- ・年齢と発達に合わせた一斉活動としては、2～5歳児のリズム運動、3～5歳児の食育活動、5歳児の「お泊り保育」などのほか、英語遊びを0歳児の2月ごろから少しずつ取り入れ、1歳児は月1回、2～5歳児では月2回行っています。
- ・献立作りでは、和食中心とし、主菜の割合として肉・魚・豆腐は2対3対1を基本にバランスよく取り入れることや、旬の食材を使うことなどを大切にしています。彩りのよい盛り付けを心がけ、子どもの食欲がわくように配慮しています。食材は、できるだけ国産のものを産地を確認して仕入れる、無添加のだしを使う、など安全性に配慮しています。

### 3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・入園説明会において、入園のしおりに基づき保育目標を新入園児の保護者に説明していますが、在園児保護者への年齢ごとの各クラスの年度目標や保育のねらいなどの説明は、1月に行われるクラス懇談会まで行われていません。年度初めに説明・周知する工夫が望まれます。
- ・個々の保護者との情報交換としては、全クラスで、毎日連絡ノートでの連絡をしています。
- ・0・1歳児については、個別指導計画を作成しています。幼児についても、特別な課題や気がかりな点がある場合には、年齢ごとの月間指導計画中に、配慮事項などを記載しています。
- ・保護者の同意を得て、横浜市北部地域療育センター、横浜市東部地域療育センター、横浜市総合リハビリテーションセンターと連携をとり、助言・情報を得ているほか、担当保育士が通所先の教室に見学に行き、子どもの様子を把握しています。また、専門医療機関の医師と連携をとり、相談したり、必要に応じて保護者に紹介できる体制があります。
- ・子どもの健康管理や園の衛生管理、安全管理、緊急時対応などに関するマニュアルが整備されています。
- ・園からの緊急連絡は、保護者と職員へ通常はメールで配信しています。災害時に利用できるよう、携帯電話会社の「災害用伝言板」を使えるようにして、保護者と職員に周知しています。また、散歩な

ど屋外活動用の携帯電話を使用していて、緊急時に互いに連絡が取れるようにしています。

#### 4、地域との交流・連携

- ・地域に向けた子育て支援として、「親子で遊ぼう」「えいごで遊ぼう」(各月1回)を開催しています。「親子で遊ぼう」では手遊びやおもちゃ作りなどの講習、絵本の読み聞かせなどを、「えいごで遊ぼう」では、英語の手遊び歌や遊びなどを行っています。
- ・育児相談は、月～金曜日の10～15時に実施していて、園長と主任が面談や電話で応じています。また、子育て支援の中でも地域支援担当職員による育児相談をしています。
- ・園に対する理解促進のために、運動会や生活発表会などの行事に、地域の人を招待しています。
- ・本園と同じ建物に入っている老人ホームとは、運動会や「敬老交流会」、「おもをおいしく食べる会」、5歳児の味噌作り、生活発表会などの行事や活動へのお年寄り招待のほか、「夏祭り」の共催、パイプイスや餅つき機の貸出し、保育室の開放など、様々な機会に関わりを持ち、交流しています。
- ・園の見学は、9月ごろまでは個別に随時受け付けています。9～11月は見学会を月3日設け、保育に支障がでないよう一回の見学の人数を6組までとしています。日程が合わずに見学会に参加できない場合には、見学希望者の都合に合わせて個別に対応しています。
- ・ボランティアがハーモニカの演奏を、地域のボランティア団体が大型絵本の読み聞かせなどを行っています。また、中学生の体験学習を受け入れています。ボランティアの意見や希望を、次年度の計画に反映させています。

#### 5、運営上の透明性の確保と継続性

- ・組織及び職員が不正・不適切な行為を行わないよう「全国保育士会倫理綱領」を配布し、説明・周知しています。
- ・年間指導計画中に、年齢ごとのエコ活動を記載しています。子どもたちも環境に関心を持つように、横浜市資源循環局からの講師を招き、環境教室を開くなどしています。
- ・保育理念・保育方針・保育目標を、園の玄関・各保育室・事務室に掲示し、保護者・職員に周知するとともに、職員には配付しています。全体会議などで園長が説明しているほか、年間指導計画・月間指導計画・週案記入用紙には、あらかじめフォーマットとして保育理念・保育方針・保育目標が記入されており、立案の際に常に意識できるように工夫しています。
- ・事業運営に関係する情報は、横浜市私立園長会や園長研修会などで得ています。重要な情報を得た場合は、全体会議などで周知し、意見を募り、園全体の取り組みとしています。
- ・開設4年目と日が浅く、後継者を計画的に育成するまでには至っていません。

#### 6、職員の資質向上の促進

- ・実習生受け入れマニュアルを作成し、それに基づいて受け入れの際は事前にオリエンテーションを行っています。オリエンテーションでは実習生に「実習の手引き」を配付のうえ、園の保育方針や特徴、注意事項などを説明しています。
- ・園運営に十分な人材構成になるように、年齢や経験年数などを考慮し、必要に応じ人材の補充を行っています。例えば、障がい児担当保育士・地域子育て支援担当保育士を配置するなど、利用者の状況や園の目標に応じた対応をしています。
- ・目標管理シートによる自己目標に関し園長との面談・振り返りのほか、園で定めた自己評価表の各項目に対する評価を、職員一人一人が年2回行っています。
- ・日常の保育や保護者との対応など、現場の職員にできるだけ任せるようにしています。また、複数の保育士が配置されているクラスでは、園としてはリーダーを指名せず、お互いの話し合いにより役割分担を決めるようにしています。

## 分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。



「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

### 評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p>  <p>(1)保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2)保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を考慮して作成されているか。</p> <p>(3)日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育理念を「こども一人一人を大切にし、保護者との信頼関係を築き、地域に根ざした保育園を目指す」としています。理念に基づき、保育方針を「豊かな思考力を持ち、伸びやかな自立心を育てる」、保育目標を「・健康で生き生きとした子ども ・おいしく楽しく食べる子ども ・意欲的に取り組み創造する子ども ・物を大切にし、思いやりのある子ども」と定めています。</li> <li>・ 園の玄関・各保育室・事務室に、保育理念・保育方針・保育目標を掲示し、保護者・職員に周知しているほか、年度末の研修会で園長が職員に説明しています。</li> <li>・ 保育課程に基づき、年齢ごとに、年間指導計画・月間指導計画・週案を作成しているほか、全クラス共通で、食育・交通安全などの年間計画を作成しています。また、年間指導計画・月間指導計画・週案記入用紙には、あらかじめフォーマットとして保育理念・保育方針・保育目標が入力されており、立案の際に常に意識できるように工夫しています。</li> <li>・ 入園説明会において、入園のしおりに基づき保育目標を新入園児の保護者に説明していますが、在園児保護者への年齢ごとの各クラスの年度目標や保育のねらいなどの説明は、1月に行われるクラス懇談会まで行われていません。年度初めに説明・周知する工夫が望まれます。</li> </ul>
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p>  <p>(1)入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。</p> <p>(2)新入園児受け入れ時の配慮を十分しているか。</p> <p>(3)子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入園説明会終了後、保護者と個人面談をしています。</li> <li>・ 保護者との面談の際には必ず子ども連れてきてもらい、面談しながら子どもの様子を把握しています。</li> <li>・ あらかじめ保護者に子どもの生育歴や家庭での様子・家庭状況などを記入・提出してもらっています。</li> <li>・ 保護者から提出された資料や面談時に把握した内容は、個別にファイルにするとともに、全体会議で全職員に伝え、共通認識をもてるようにし、日々の保育に活かしています。</li> <li>・ 入園後の、なれ保育（短縮保育）は、子どもの様子や保護者の状況を踏まえて、保護者と個々に話し合いながら進めています。</li> <li>・ 全クラスで連絡ノートにより保護者とていねいな連絡をしています。</li> </ul>

	<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 0歳児クラスから1歳児クラスへ進級する子どもたちは、分園から本園に移動するので、1月頃から本園で過ごす日を取り入れるなど、不安のないように工夫しています。また、2歳以上の在園児には、日常の活動の中で、異年齢児間の交流をできるだけ取り入れ、進級の楽しみを持てるように配慮しています。</li> <li>・ 子どもの発達や状況に応じて、月間指導計画・週案の作成・評価・見直しを行っています。</li> <li>・ 評価、改訂にあたっては、朝夕送迎時の保護者の意向や、運営委員会での意見などを反映するようにしています。</li> </ul>
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p>  <p>(1)子どもが快適に過ごせるような環境(清潔さ、採光、換気、照明等)への配慮がなされているか。</p> <p>(2)沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。</p> <p>(3)子どもの発達に応じた環境が確保されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園内の内装や子どもが触れる家具備品・おもちゃ・生活用具はできるだけ木製製品を使用しています。</li> <li>・ 各保育室に空気清浄機を設置し、通風・換気を良くしています。</li> <li>・ 各保育室に空調設備を設置し、適正な温度に保っています。また、各保育室や廊下などには床暖房設備が設置され、冬期でも暖かく、子どもたちは裸足で過ごしています。</li> <li>・ 0歳児室および1歳児室に沐浴設備があります。</li> <li>・ 温水シャワーは、本園の保育室に隣接して設置しているほか、屋上園庭にも設置しています。</li> <li>・ 段ボール製の手づくり仕切りや、移動可能な小さな棚、クッション、マットなどで必要に応じてコーナーをつくり、小集団活動が行われるよう、保育室の使い方を工夫しています。</li> <li>・ 食事後テーブルを片づけて布団を敷くなど、食べる場所と寝る場所を時間によって使い分けています。</li> </ul>
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p>  <p>(1)子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しているか。</p> <p>(2)子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 0・1歳児については、個別指導計画を作成しています。幼児についても、特別な課題や気がかりな点がある場合には、年齢ごとの月間指導計画中に、配慮事項などを記載しています。</li> <li>・ 個別指導計画は、毎月末に評価・反省と目標・計画の見直しを行い、翌月の指導計画を作成しています。子どもの発達状況などに応じて、月の途中でも柔軟に変更・見直しを行っています。</li> <li>・ 保育所児童保育要録を小学校に送付しています。</li> <li>・ 子どもや家庭の個別の状況・要望などを決められた書式に記録し、個人別にファイリングして鍵のかかる書棚に保管しています。</li> <li>・ 進級時には、前担任が子どもの状況を新担任に伝達しているほか、内容を記載した引継ぎ表を渡しています。</li> <li>・ 毎年度末、0～5歳児の全てのクラスで、子ども一人一人について、年間の活動の様子や行事の時などの主な写真をまとめています。卒園時に、これらを編集し、入園以来の思い出を綴った卒園アルバムを手づくりし、一人一人に贈っています。</li> </ul>

## - 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- (1)特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。
- (2)障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。
- (3)虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (4)アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。
- (5)外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

- ・ 本園・分園とも、段差のないフラットな作りとなっていて、車椅子用トイレを備えるなど、バリアフリーに配慮しています。
- ・ 特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れています。
- ・ 個別のケースについては、クラス会議で話し合い、配慮すべき事項などを記録しています。
- ・ 横浜市や地域療育センターなどが行う研修に職員が積極的に参加し、全体会議で報告したり、研修報告書を回覧したりして、職員が情報を共有できるようにし、保育に活かしています。
- ・ 障がいのある子ども担当の保育士を配置しています。
- ・ 保護者の同意を得て、横浜市北部地域療育センター、横浜市東部地域療育センター、横浜市総合リハビリテーションセンターと連携をとり、助言・情報を得ているほか、担当保育士が通所先の教室に見学に行き、子どもの様子を把握しています。また、専門医療機関の医師と連携をとり、相談したり、必要に応じて保護者に紹介できる体制があります。
- ・ 虐待が明白になった場合、虐待が疑わしい場合や見守りが必要な場合に、緑福祉保健センターや横浜市北部児童相談所に通報したり相談したりする体制を整えています。保育士は、子どもが午睡前にパジャマに着替える際などに身体観察をしっかりと行い、けが・あざなど虐待が疑われる場合には、写真で記録を残すようにしています。
- ・ アレルギー疾患のある子どもの場合は、かかりつけ医の診断書や指示書に基づき、保護者と話し合い適切な対応をしています。
- ・ 食物アレルギーの場合には、保護者・栄養士・保育士の3者で翌月の献立について、説明・確認を行い、代替食・除去食を提供しています。
- ・ 代替食・除去食を提供する場合は、専用トレイ・絵柄のちがう専用食器を使用し、名札を立てて間違いのないようにしています。また、代替食については、子どもにとって「見た目」が普通食と変わらないよう、食材を工夫しています。
- ・ 1～5歳児には「英語遊び」の時間が月1～2回あり、英語を楽しみながら文化の違いを子どもたちが知ることができるようにしています。講師は日本語を全く使わずプログラムを進めますが、年齢の小さい子どもたちも、歌を歌ったりダンスをしたりしながら楽しんでいます。

## - 6 苦情解決体制



- (1)保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。
- (2)要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

- ・ 苦情解決要綱を定めています。
- ・ 苦情解決体制の概要、苦情受け付け担当者（主任）・苦情解決責任者（園長）・第三者委員（2名の氏名と連絡先）を園内に掲示しています。
- ・ 外部の権利擁護機関である横浜市福祉調整委員会に、苦情を申し立てることができることを掲示しています。
- ・ 本園の保護者コーナーや分園の玄関に意見箱を設置しています。また、保護者代表が参加している運営委員会でも要望や苦情を聞いています。
- ・ 要望や苦情は、文書でなくとも口頭でも受け付けることを保護者に

伝えていきます。

- ・ 要望・苦情があった場合には、できるだけ早く園長が保護者と面談するようスピーディな対応を心がけています。また、全体会議などで報告し、話し合いをして、全職員が共通の意識を持って解決に努めるようにしています。
- ・ 要望・苦情があった場合には、苦情要望対応シートに記録し、ファイリングして蓄積し、解決に活かしています。

## 評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 667 472 701">- 1 保育内容[遊び]</p>  <p data-bbox="119 846 555 965">(1)子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。</p> <p data-bbox="119 981 555 1055">(2)遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。</p> <p data-bbox="119 1070 555 1189">(3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。</p> <p data-bbox="119 1205 555 1323">(4)子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。</p> <p data-bbox="119 1339 555 1413">(5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。</p> <p data-bbox="119 1429 555 1503">(6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中になされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子どもの手の届く高さの棚やウォールポケットに絵本を収納し、おもちゃ箱には中の物の絵や写真を貼るなどして、子どもが自由に絵本や教材、おもちゃを取り出せるように工夫しています。</li><li>・ 保育室は仕切りやマット、畳などでコーナー作りをして、子どもが少人数で落ち着いて遊び込める環境づくりをしています。</li><li>・ 子どもの自由な発想やアイデアを大切に、集団活動に取り入れています。例えば、子どもの声からアレンジしたゲームを取り入れたり、子どもたちの好きな絵本を生活発表会の演目に発展させたりしています。</li><li>・ 年齢と発達に合わせた一斉活動としては、2～5歳児のリズム運動、3～5歳児の食育活動、5歳児の「お泊り保育」などのほか、英語遊びを0歳児の2月ごろから少しずつ取り入れ、1歳児は月1回、2～5歳児では月2回行っています。</li><li>・ 園庭で、トマトやピーマン、大豆、花などの栽培(4、5歳児)を子どもたちがしています。種や苗の植え付けや水やり、収穫などの体験を通して、子どもたちが植物を育てることに喜びを感じられるようにしています。</li><li>・ 3～5歳児が「芋ほり遠足」でサツマイモの収穫体験をしています。また、収穫したサツマイモを使って「おいもをおいしく食べる会」を開き、全クラス子どもたちが参加して、季節を感じながら大勢で食べることを楽しむ機会を設けています。</li><li>・ 5歳児では、雌雄のカブトムシを保育室で飼育し、卵からかえったカブトムシに子どもたちが名前を付けるなど、命の大切さや生き物への親しみを感じられる経験をしました。</li><li>・ 4、5歳児では、子どもたちが種から育てた花の苗を地域の公園愛護会の人たちと一緒に近隣の公園に植え、子どもたちが緑に慣れ親しむとともに、地域とのつながりが持てる機会を設けています。</li><li>・ 子どもが手遊びや工作などにいつでも利用できるように、色画用紙や包装紙、裏紙、粘土、牛乳パック、ペットボトル、プラスチック容器など様々な素材を用意しています。</li><li>・ 異年齢同士の交流としては、朝夕の遊びの時間や給食(4、5歳児)・午睡(2・3歳児、4・5歳児)を合同で過ごしているほか、リズム</li></ul>

	<p>運動（2～5歳児）や誕生会（0～5歳児）、異年齢の縦割りグループでの活動（3～5歳児）など様々な機会を設けています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天候の良い日には、近隣の公園や河原への散歩、屋上や1階の園庭での遊びなど、屋外活動を取り入れています。興味を持った植物や昆虫について、園に帰ってから子どもたちは図鑑や本で調べています。</li> <li>・紫外線対策として、屋外活動では必ず帽子を被るようにしているほか、夏期には屋上と1階の園庭に遮光ネットを張っています。また、アレルギーや肌が敏感な子どもへの配慮として、ハーブの虫よけスプレーの利用や長袖長ズボンを着せる、などを行っています。</li> <li>・園庭では、子どもたちは走り回ったり、ボールで遊んだり、縄跳びをしたり、滑り台や「たいこばし」（大型雲梯）などで身体を使って遊んでいます。</li> <li>・全クラスで発達過程に合わせたダンスや体操を取り入れ、保育室内で子どもたちは全身を動かしています。0歳児保育室ではマットや滑り台、トンネルくぐりができる遊具、1歳児以上ではマットなどを使う遊びをしています。</li> <li>・5歳児保育室には、登る、ぶら下がる、空中を移動するなどができる、壁一面を活用した大型壁面遊具を設置しています。子どもたちが忍者遊びになぞらえ「ニンニンコース」と名付けていて、人気があります。</li> </ul>
<p>- 1 保育内容[生活]</p>  <p>(7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。  (8)食事の場、食材、食器等に配慮しているか。  (9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。  (10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。  (11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。  (12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厨房は保育園・老人ホーム共同で、調理は外部業者に委託しています。それまで老人ホームと同様のものを乳幼児向きにアレンジしていた献立を、平成24年9月に栄養士を採用し、10月から園独自のものに変更しました。午後のおやつは全て手作りしています。</li> <li>・献立作りでは、和食中心とし、主菜の割合として肉・魚・豆腐は2対3対1を基本にバランスよく取り入れることや、旬の食材を使うことなどを大切にしています。彩りのよい盛り付けを心がけ、子どもたちの食欲がわくように配慮しています。</li> <li>・食材は、できるだけ国産のものを産地を確認して仕入れる、無添加のだしを使う、など安全性に配慮しています。</li> <li>・食器は、割れにくく、割れた場合にも飛散が少ないことから強化磁器のものを使用しています。0歳児では強化磁器のほかに、割れないメラミン食器も使用しています。</li> <li>・給食やおやつを食べる前に、保育士が食べ物や食事に関する絵本を読んだり、その日の献立や使われている食材についての話をしたりして、食事の場としての雰囲気づくりをしています。</li> <li>・授乳する時や離乳食を食べさせる時は、穏やかでゆったりとした語りかけをし、一人一人の子どものペースに合わせて行っています。</li> <li>・子どもが苦手な食べ物は、保育士が子どもに聞いて量を減らす、一口だけ食べることを促すなどして、無理に強制して食べさせることはしていません。</li> <li>・栄養士が子どもたちの食事の様子を日常的に見ていて、週2回程度、子どもたちと会話を交わしながら一緒に食事をしています。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事への関心が持てるように、クッキーやスイートポテトなどの調理体験（3～5歳児）を取り入れています。</li> <li>・ 子どもが栽培した大豆も使って、5歳児が1月に味噌を仕込んでいます。卒園後の夏休みに、保護者とともに招待し「味噌汁パーティー」を行っています。</li> <li>・ 給食の試食会を年1回、2歳児クラスと4歳児クラスで実施し、保育士が栄養や味付けなど、園で配慮していることを知らせています。</li> <li>・ 午睡時に、眠くない子どもや眠れない子どもには、午睡を強要することはせず、保育士がそばで穏やかな声掛けをしたり、保育室のコーナーや使っていない保育室で過ごすなどして、柔軟に対応しています。</li> <li>・ 乳幼児突然死症候群予防のために、保育士は子どもをうつぶせ寝にはせず、午睡中うつぶせ寝にならないよう子どものそばで見守っています。0、1歳児では、生後6か月までは5分ごとに、それ以降は10分ごとに睡眠中の呼吸確認をしています。</li> <li>・ 乳児クラスでは子ども一人一人の排泄について記録して、個人差があることを把握しています。</li> <li>・ トイレトレーニングは保護者と話し合い、一人一人の子どもの発達状況に応じて無理なく対応しています。</li> <li>・ 子どもがおもらしをした時に、保育士は叱らずに、シャワー室のドアを閉めるなどして子どもの気持ちに配慮し、さりげなく対応するよう心掛けています。</li> </ul>
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p>  <p>(1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。</p> <p>(2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。</p> <p>(3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの健康管理に関するマニュアルや、一人一人の「健康の記録」「健康ノート」を作成し、子どもの健康状態を把握しています。</li> <li>・ 6月に保育士が3～5歳児に紙で作った大きな歯ブラシを使って、歯みがき指導をしています。また、0歳児の離乳食完了期の子どもから、保育士が食後の歯みがきを行い、2～5歳児では子どもが歯みがきしてから、保育士が仕上げみがきをしています。</li> <li>・ 健康診断（年2回）と歯科健診（年1回）の結果は一人一人記録するとともに、分かり次第「健康ノート」を用いて保護者に伝えています。</li> <li>・ 感染症などへの対応に関するマニュアルを作成していて、登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応マニュアルに明記しています。</li> <li>・ 保育中に感染症が発症した時は、保護者に速やかに連絡し迎えの時間などを相談しています。迎えまでは保育士や主任の見守りのもと、事務室のベッドで過ごすなど、柔軟に対応しています。</li> </ul>
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p>  <p>(4)衛生管理が適切に行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 衛生管理に関するマニュアルを作成し、各保育室やトイレ、調理室、園庭など施設内外とおもちゃや用具の清掃・消毒方法、職員の清掃分担などを記載しています。</li> <li>・ マニュアルの見直しは年1回、職員参加のもと行い、改定時には変更箇所を全職員へ配付しています。また、小さな変更は申し送りでも伝えています。</li> </ul>

## - 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- (5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。
- (6)事故や怪我の発生時および事後の対応体制が確立しているか。
- (7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- ・「健康と安全管理マニュアル」「緊急時対策マニュアル」を作成し、緊急時の対応について明記していて、事故や災害に適切に対応したものとっています。
- ・園内のロッカーや棚では、造りつけにしたり、転倒防止のための固定をしています。電子ピアノのキーボードでは落下防止のためにゴムバンドやずれ防止マットを用いるなどして、地震などを想定した安全対策をしています。
- ・園からの緊急連絡は、保護者と職員へ通常はメールで配信しています。また、災害時に利用できるよう、携帯電話会社の「災害用伝言板」を使えるようにしていて、保護者と職員に周知しています。
- ・散歩など屋外活動用の携帯電話を使用していて、緊急時に互いに連絡が取れるようにしています。
- ・年1回緑消防署と連携し園で消防訓練を実施し、職員が子どもたちの見ている前で消火体験をしています。消防署員が火を見つけたら大人に知らせることや避難訓練についてなどの話を子どもたちにしています。
- ・年1回、警察署の職員から、園で子どもたちが交通安全の指導を受けています。
- ・事故やケガがあった場合には「事故報告書」に記録し、全体会議で報告するとともに改善策を話し合い、再発防止に努めています。また、ヒヤリハットを記録し、事故やケガを防ぐために活用しています。
- ・園出入口の門扉は常に施錠しています。登降園を行う玄関のほか、本園2~5歳児保育室と老人ホームロビーとの間の扉、1歳児保育室のドアに、電子錠を設置しています。
- ・防犯カメラを本園に10か所、分園に4か所設置しています。また、夜間や休日など無人時に働くセンサーを本園事務室に設置しています。
- ・不審者に関する対策として、防犯訓練は侵入対策だけでなく散歩時の対応も設定し、2~5歳児も参加して年3回行っています。また、警察署の職員から、知らない人には付いて行かないことなど防犯について、園で2~5歳児が話を聞く機会を設けています。

## - 3 人権の尊重



- (1)保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。
- (2)必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。
- (3)個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。
- (4)性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- ・入職時に配付する、子どもの人権尊重について記載のある運営規定や、研修会などを通して、子どもに罰を与えたりはせず子どもの自尊心を大切にすることを、全職員が認識しています。
- ・子どもに威圧感を与えず一対一で話をする必要がある場合や、子どもが友だちに知られたくないことを話したい時には、廊下や老人ホームのロビー、事務室などを利用して、プライバシーに配慮しています。
- ・個人情報の取り扱いについてガイドラインをつくり入職時に全職員に配付し、ボランティアや実習生にも事前のオリエンテーションで説明しています。職員と実習生は守秘義務や個人情報の取り扱いについての誓約書を提出しています。
- ・個人情報や園で撮影する写真の取り扱いについて、保護者には入園

	<p>時に説明し、入園・進級時に同意書を提出してもらい、了承を得ています。また、個人情報の取り扱いについて、ホームページに載せ、廊下に掲示して、保護者に知らせています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性差への先入観による役割分業意識を子どもに植え付けないように、遊びや行事での役割、持ち物、服装などで性別による区別はしていません。また、名簿は生年月日の順にするなど、順番、グループ分け、整列などでも性別では分けていません。</li> </ul>
<p>- 4 保護者との交流・連携</p>  <p>(1)保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。</p> <p>(2)個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。</p> <p>(3)保護者の相談に応じているか。</p> <p>(4)保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。</p> <p>(5)保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。</p> <p>(6)保護者の自主的な活動の援助や意見交換を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入園時に配布する「保育のしおり」と園のパンフレットに保育目標を明記し、園の保育方針について入園式や保護者参加行事での挨拶の中で、保護者に説明しています。また、園の運営委員会で保護者代表の運営委員(3名)に園の保育方針について説明しています。</li> <li>・ 個々の保護者との情報交換としては、全クラスで、毎日連絡ノートでの連絡をしています。</li> <li>・ 必要があれば個別に面談ができることを、保護者に知らせています。</li> <li>・ 送迎時には、保育士はできるだけ保護者に話しかけ、その日の子どもの様子を伝えるよう配慮しています。</li> <li>・ 懇談会は年1回、1月にクラスごとに実施しています。</li> <li>・ 保護者から相談があった時には、事務所や地域子育て支援スペースを利用して落ち着いて話せるように配慮しています。相談は記録して、継続した支援ができるようにしています。</li> <li>・ 日常の保育中の子どもたちの様子を写真に撮り、保護者向けコーナーに掲示したり、ホームページに「写真だより」のコーナーを設けたりして、日頃の生き生きした様子を伝えるよう努めています。</li> <li>・ 懇談会は年1回、1月にクラスごとに実施し、保護者の保育参加の機会を年1回設けています。出席できなかった保護者には、送迎時に配布物と内容を文書にして手渡し、口頭でも伝えています。</li> <li>・ 保護者が自主的に、夏祭りでのゲームコーナーなどの催し、運動会の準備や片づけ、卒園記念会の開催などを行っています。分園や本園の空いている保育室を、保護者の自主的な活動に提供しています。</li> <li>・ 保護者アンケートでは、「保護者懇談会が1月なので、4~6月中にもやって欲しい」「個別面談をして欲しい」「送り迎えのとき、先生方が忙しそうのでゆっくり相談できない」という声もあります。</li> </ul>

## 評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>  <p>(1)地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。 (2)地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域に向けた子育て支援として、「親子であそぼう」「えいごであそぼう」（各月1回）を開催しています。「親子であそぼう」では手遊びやおもちゃ作りなどの講習、絵本の読み聞かせなどを、「えいごであそぼう」では、英語の手遊び歌や遊びなどを行っています。</li> <li>・ 「親子であそぼう」「えいごであそぼう」に訪れた人との会話や育児相談、地域の子育て支援協議会などを通して、子育て支援に対する要望や地域の子育て支援ニーズを把握しています。</li> </ul>
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p>  <p>(1)地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。 (2)相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育児相談は、月～金曜日の10～15時に実施していて、園長と主任が面談や電話で応じています。また、子育て支援の「親子であそぼう」「えいごであそぼう」（それぞれ月1回）の中でも地域支援担当職員による育児相談をしています。</li> <li>・ 園のホームページや緑区の広報紙「みどりっ子カレンダー」で、園で実施している子育て支援と育児相談について、日時や受付方法を知らせています。また、地域に向けた掲示板で、園の子育て支援の情報を提供しています。</li> <li>・ 横浜市北部地域療育センターや横浜市総合リハビリテーションセンター、緑区役所など関係機関との連携は、園長が担当しています。</li> </ul>

## 評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>  <p>(1)保育園に対する理解促進のための取り組みを行っているか。 (2)子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園に対する理解促進のために、運動会や生活発表会などの行事に、地域の人を招待しています。</li> <li>・ 本園と同じ建物に入っている老人ホームとは、運動会や「敬老交流会」、「おいもをおいしく食べる会」、5歳児の味噌作り、生活発表会などの行事や活動へのお年寄り招待のほか、「夏祭り」の共催、パイプイスや餅つき機の貸出し、保育室の開放など、様々な機会に関わりを持ち、交流しています。</li> <li>・ 園周辺の清掃を保育士が毎日行うなど、近隣との友好的な関係作りに配慮しています。訪問調査日には園周辺の歩道の雪かきを職員がしていました。</li> <li>・ 日常的に、散歩で出会う地域の人や、老人ホームのお年寄りや職員と、子どもたちは挨拶や会話を交わして交流しています。また、散歩で他の保育園と出会った時には一緒に遊ぶなどしています。</li> <li>・ 子どもの生活の充実と地域の理解を深めるために、全クラスの子どもたちが遠足で四季の森公園に行っているほか、土曜保育の子どもたちが地域の小学校や幼稚園の運動会に参加しています。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5歳児では、横浜市白山地区センターの図書コーナーの利用や、地域子育て支援拠点「いっぽ」のイベントへの参加、近隣の保育園を訪れての交流などの機会を設けています。</li> </ul>
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p>  <p>(1)将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。 (2)利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園のホームページや横浜市こども青少年局のホームページ「はぴねすぽっと」、緑区の広報誌「みどりっ子カレンダー」、インターネットの地域情報検索サイトに、園の情報を分かりやすく提供しています。</li> <li>・ 園の見学は、9月ごろまでは個別に随時受け付けています。9～11月は見学会を月3日設け、保育に支障がでないよう一回の見学の人数を6組までとしています。日程が合わずに見学会に参加できない場合には、見学希望者の都合に合わせて個別に対応しています。</li> </ul>
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p>  <p>(1)ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。 (2)実習生の受け入れを適切に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアがハーモニカの演奏を、地域のボランティア団体が大型絵本の読み聞かせなどを行っています。また、中学生の体験学習を受け入れています。</li> <li>・ ボランティアの意見や希望を、次年度の計画に反映させています。</li> <li>・ 実習生受け入れマニュアルを作成し、それに基づいて受け入れの際は事前にオリエンテーションを行っています。オリエンテーションでは実習生に「実習の手引き」を配付のうえ、園の保育方針や特徴、注意事項などを説明しています。</li> <li>・ ボランティアと実習生の受け入れについては主任が担当し、活動記録を整備しています。</li> </ul>

## 評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p>  <p>(1)保育園の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。 (2)職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。 (3)非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園運営に十分な人材構成になるように、年齢や経験年数などを考慮し、必要に応じ人材の補充を行っています。例えば、障がい児担当保育士・地域子育て支援担当保育士を配置するなど、利用者の状況や園の目標に応じた対応をしています。</li> <li>・ 職員育成・研修計画を作成しています。</li> <li>・ 毎年、職員は目標管理シートに自己目標を記入し、園長との面談および振り返りを行っています。</li> <li>・ 横浜市や地域療育センターなどが行う研修会など、外部研修に職員が積極的に参加しています。</li> <li>・ 研修に参加した職員は、全体会議などで報告するほか、報告書を回覧し、職員全員で情報を共有するようにしています。</li> <li>・ 非常勤職員も内部研修や外部研修に参加しています。また、職員と同様に目標管理シートによる自己目標設定・園長との面談を行なっています。</li> </ul>

## - 2 職員の技術の向上



- (1) 職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。
- (2) 保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を振り返り、改善に努める仕組みがあるか。
- (3) 保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。

- ・ 目標管理シートによる自己目標に関し園長との面談・振り返りのほか、園で定めた自己評価表の各項目に対する評価を、職員一人一人が年2回行っています。
- ・ 地域療育センターの職員から、特に配慮を要する子どもへの保育技術の評価・指導を受けています。
- ・ クラス会議で、日々の保育日誌や週案の振り返りを行い、評価・反省を、週案・月間指導計画・年間指導計画の作成・見直しに活かしています。振り返りは、計画で意図したねらいと関連付けて行い、子どもの意欲や取り組む姿勢がどのようであったかなどを重視して行っています。
- ・ 年度末に、各クラスおよび園全体の振り返りを行い、その結果をもとに、園の課題を明らかにし、改善に取り組んでいます。
- ・ 園全体として、体系的に自己評価を行うまでには至っていません。

## - 3 職員のモチベーション維持



- (1) 本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

- ・ 職員育成・研修計画の中に、経験年数に応じた役割・期待水準を明記しています。
- ・ 日常の保育や保護者との対応など、現場の職員にできるだけ任せられるようにしています。また、複数の保育士が配置されているクラスでは、園としてはリーダーを指名せず、お互いの話し合いにより役割分担を決めるようにしています。
- ・ 会議の場だけでなく、いつでも園長や主任に改善提案したり、意見を述べたりできることが職員ヒアリングで確認されました。
- ・ 園長は、目標管理シートに基づく職員との個別面談のときに、満足度・要望なども把握しています。また、随時、職員との個人面談に応じています。

## 評価領域 経営管理

### 評価分類

#### - 1 経営における社会的責任



- (1) 事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。
- (2) サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。

### 評価の理由（コメント）

- ・ 組織及び職員が不正・不適切な行為を行わないよう「全国保育士会倫理綱領」を配布し、説明・周知しています。
- ・ 横浜市の監査報告会などで得た他施設での不正、不適切な事案を、全体会議などで報告し、啓発しています。
- ・ ごみの分別収集や、裏紙の使用、広告紙を使った折り紙、牛乳パックを利用した製作など、ごみ減量化・リサイクルに取り組んでいます。
- ・ 照明はすべてLEDにし、床暖房などには夜間電力を使用した自然冷媒ヒートポンプ給湯機を使用し、省エネルギーに努めています。また、むだな照明をこまめに消したり、水を流しっぱなしにしないなど、節電・節水を心がけています。
- ・ 年間指導計画中に、年齢ごとのエコ活動を記載しています。子どもたちも環境に関心を持つように、横浜市資源循環局からの講師を招き、環境教室を開くなどしています。

## - 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- (1) 保育園の理念や基本方針等について職員に周知されているか。
- (2) 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。
- (3) 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。

- ・ 保育理念・保育方針・保育目標を、園の玄関・各保育室・事務室に掲示し、保護者・職員に周知するとともに、職員には配付しています。全体会議などで園長が説明しているほか、年間指導計画・月間指導計画・週案記入用紙には、あらかじめフォーマットとして保育理念・保育方針・保育目標が記入されており、立案の際に常に意識できるように工夫しています。
- ・ 主任は、クラス日誌や保育日誌などで、個々の職員の業務状況を把握しています。また、クラス会議や週案会議などにも同席しています。
- ・ 主任は、個々の職員の能力や経験にあわせ、的確な助言や指導を行っているほか、勤務シフト編成作成時、個々の職員の状況を把握し、精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう配慮しています。

## - 3 効率的な運営



- (1) 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。
- (2) 保育園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

- ・ 事業運営に係る情報は、横浜市私立園長会や園長研修会などで得ています。重要な情報を得た場合は、全体会議などで周知し、意見を募り、園全体の取り組みとしています。
- ・ 法人として2012年度から5年間の中期経営計画を定め、親と子のつどいの広場、学童保育所、障がい児学童保育所など、新たなサービスを盛り込んでいます。
- ・ 社会保険労務士や会計事務所、弁護士などの専門家の意見を運営に取り入れています。
- ・ 開設4年目と日が浅く、後継者を計画的に育成するまでには至っていません。

## 利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2012年11月1日～11月15日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。  
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 53.8%（80枚配付、43枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...6人、1歳児クラス...6人、2歳児クラス...8人、3歳児クラス...5人、  
4歳児クラス...7人、5歳児クラス...10人0

同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

### 設問ごとの概要

- ・【問1】保育目標や保育方針については、72.1%の保護者が「よく知っている」「まあ知っている」と答え、そのうち94%の保護者が「賛同できる」「まあ賛同できる」と回答しています。
- ・【問2】～【問7】で「満足」「どちらかといえば満足」が多い項目を5つ挙げると次のとおりです。

	設 問	項 目	「満足」「どちらかとい えれば満足」計
問2	入園時の状況	保育園での1日の過ごし方の説明	95.3%
問4	日常の保育内容（遊び）	自然に触れたり、地域に関わるなどの、園外活動	93.1%
問4	日常の保育内容（生活）	子どもが給食を楽しんでいる	93.1%
問4	日常の保育内容（遊び）	遊びを通じた友だちや保育者との関わり	93.0%
問6	園と保護者との連携・交流	園だよりや掲示による情報提供	93.0%
問7	職員の対応	子どもが大切にされている	93.0%

- ・【問2】～【問7】で「不満」「どちらかといえば不満」が多い項目を5つ挙げると、次のとおりです。

	設 問	項 目	「不満」「どちらかとい えれば不満」計
問6	園と保護者との連携・交流	保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会	23.3%
問6	園と保護者との連携・交流	送り迎えの際の子どもの様子に関する情報交換	20.9%
問5	快適さや安全対策	感染症の発生状況や注意事項などの情報提供	16.3%
問6	園と保護者との連携・交流	保護者からの相談事への対応	14.0%
問4	日常の保育内容（遊び）	子どもが戸外活動を十分にしている	13.9%

- ・保育園の総合的な満足度は、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせて88.4%です。

### まとめ

子どもたちが楽しく過ごし、職員からも大切にされていることに、保護者は満足していることが伺われます。「子どもが楽しく通っている」「安心して子どもを預けることができる」など感謝の言葉もありますが、「戸外遊びを増やして欲しい」「午睡後も戸外活動を取り入れて欲しい」などの声もあります。園と保護者との連携・交流では、「保護者懇談会が1月なので、4～6月中にもやって欲しい」「年2回くらいはやって欲しい」「個別面談をして欲しい」「送り迎えのとき、先生方が忙しそうなのでゆっくり相談できない」などの声があります。

## 利用者（園児）家族アンケート集計結果

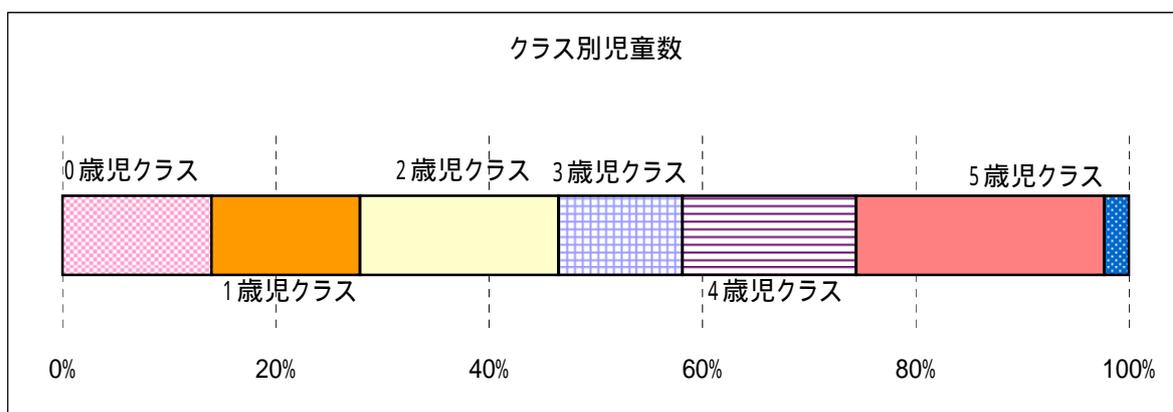
実施期間： 2012年 11月1日～11月15日

回収率： 53.8% （回収43枚 / 配布80枚）

### 【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
43	6	6	8	5	7	10	1

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



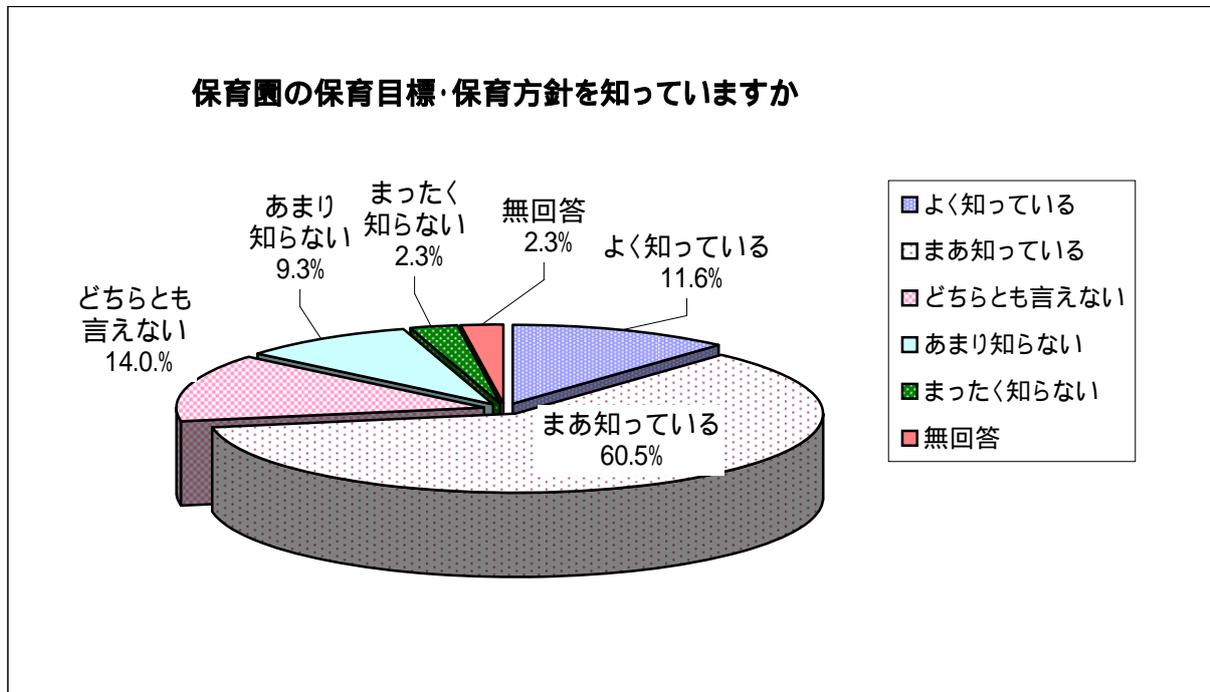
# 保育園の基本理念や基本方針について

## 問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	11.6	60.5	14.0	9.3	2.3	2.3	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

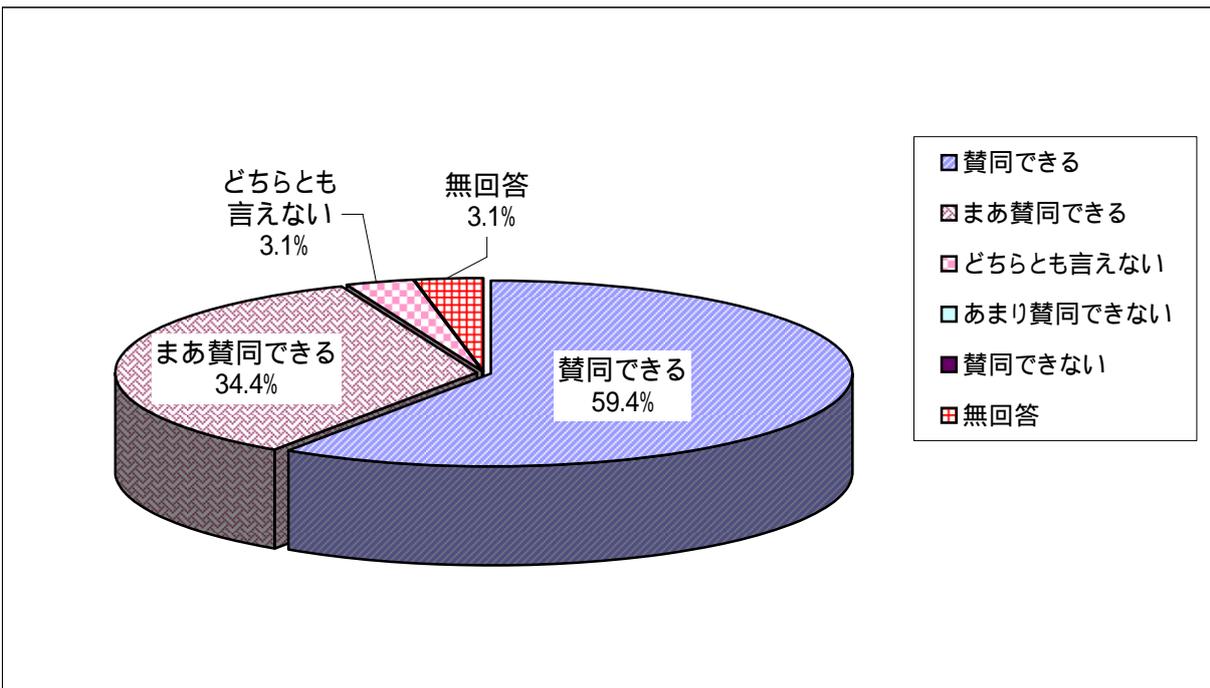


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

## 付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	59.4	34.4	3.1	0.0	0.0	3.1	100



# 保育園のサービス内容について

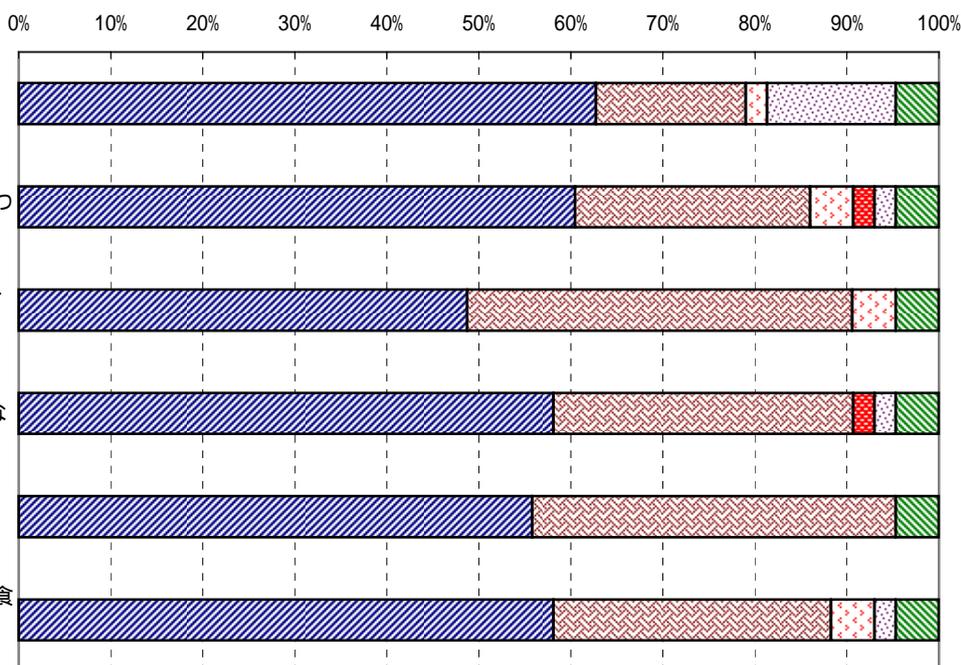
## 問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	62.8	16.3	2.3	0.0	14.0	4.7	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	60.5	25.6	4.7	2.3	2.3	4.7	100
園の目標や方針についての説明には	48.8	41.9	4.7	0.0	0.0	4.7	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	58.1	32.6	0.0	2.3	2.3	4.7	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	55.8	39.5	0.0	0.0	0.0	4.7	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	58.1	30.2	4.7	0.0	2.3	4.7	100

### 入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



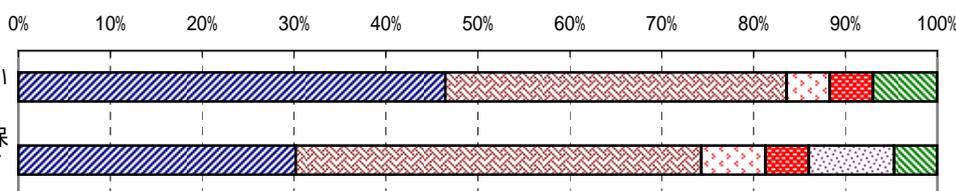
## 問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	46.5	37.2	4.7	4.7	0.0	7.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	30.2	44.2	7.0	4.7	9.3	4.7	100

### 年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



### 問4 日常の保育内容について

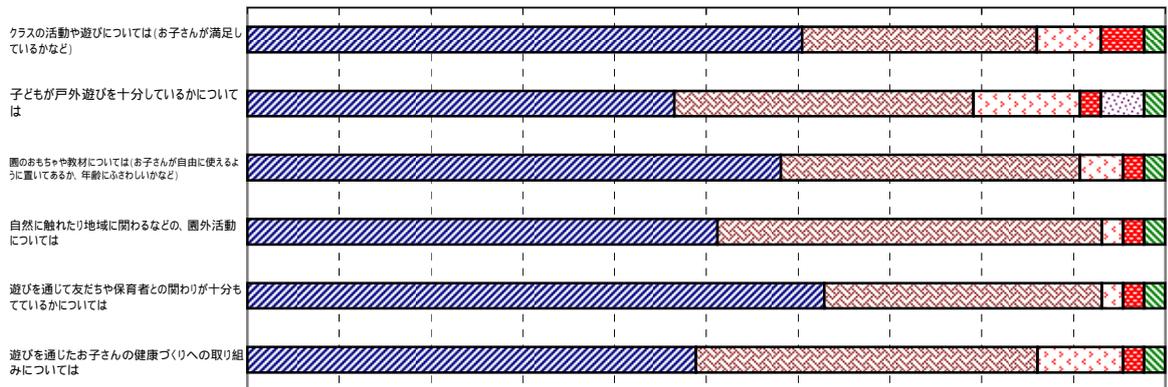
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	60.5	25.6	7.0	4.7	0.0	2.3	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	46.5	32.6	11.6	2.3	4.7	2.3	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	58.1	32.6	4.7	2.3	0.0	2.3	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	51.2	41.9	2.3	2.3	0.0	2.3	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	62.8	30.2	2.3	2.3	0.0	2.3	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	48.8	37.2	9.3	2.3	0.0	2.3	100

#### 日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



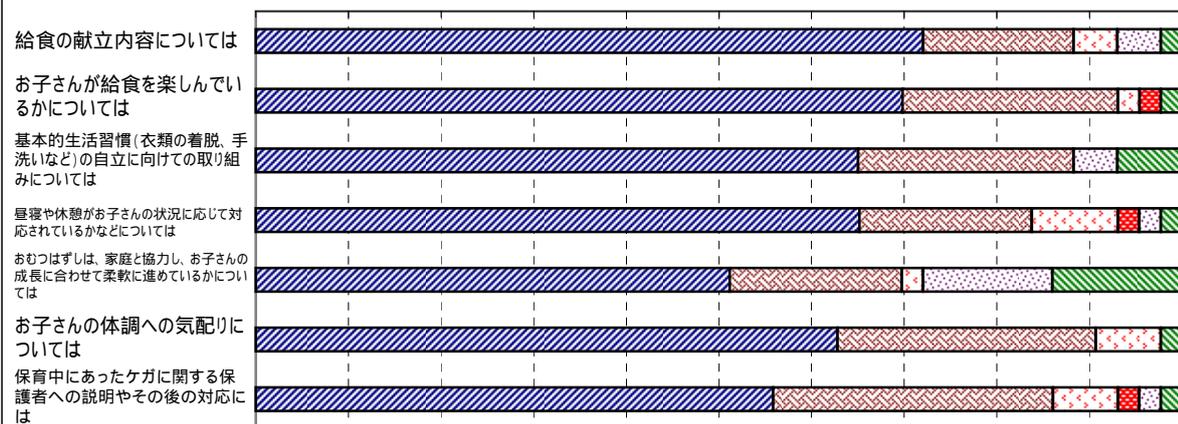
(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	72.1	16.3	4.7	0.0	4.7	2.3	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	69.8	23.3	2.3	2.3	0.0	2.3	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	65.1	23.3	0.0	0.0	4.7	7.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	65.1	18.6	9.3	2.3	2.3	2.3	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	51.2	18.6	2.3	0.0	14.0	14.0	100
お子さんの体調への気配りについては	62.8	27.9	7.0	0.0	0.0	2.3	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	55.8	30.2	7.0	2.3	2.3	2.3	100

#### 日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



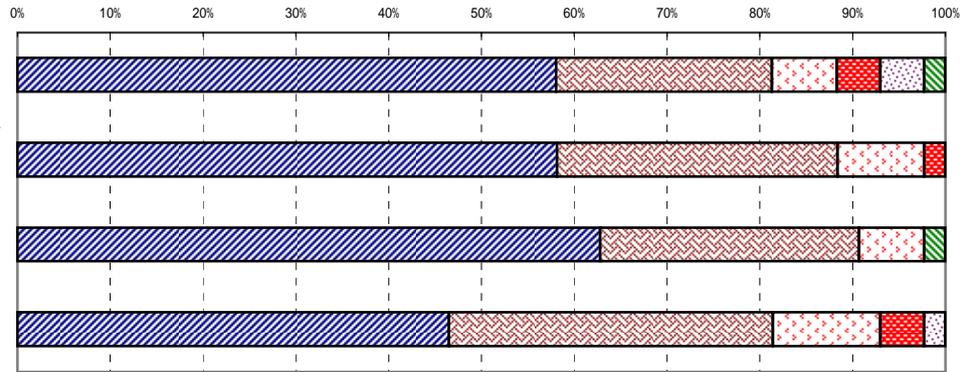
### 問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	58.1	23.3	7.0	4.7	4.7	2.3	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	58.1	30.2	9.3	2.3	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	62.8	27.9	7.0	0.0	0.0	2.3	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	46.5	34.9	11.6	4.7	2.3	0.0	100

#### 快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



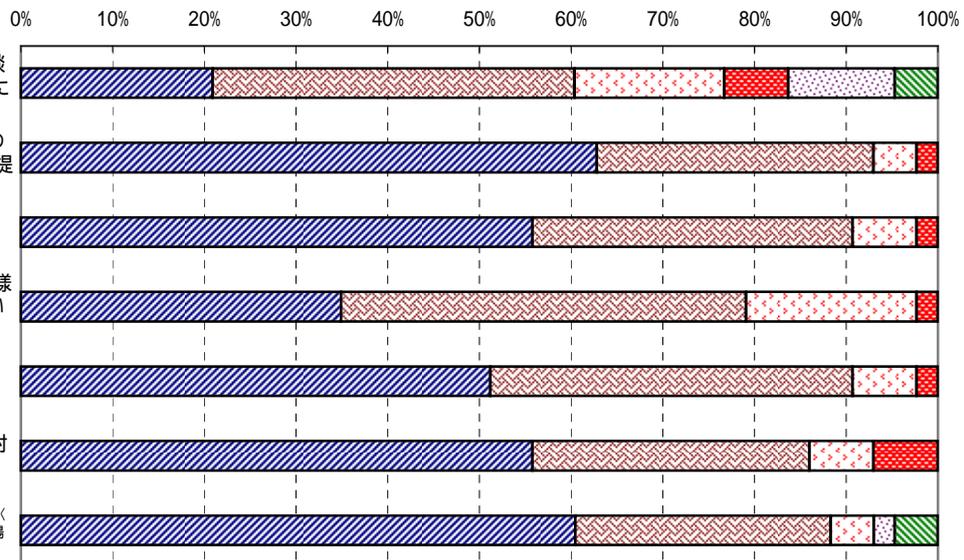
### 問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	20.9	39.5	16.3	7.0	11.6	4.7	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	62.8	30.2	4.7	2.3	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	55.8	34.9	7.0	2.3	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	34.9	44.2	18.6	2.3	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	51.2	39.5	7.0	2.3	0.0	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	55.8	30.2	7.0	7.0	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	60.5	27.9	4.7	0.0	2.3	4.7	100

#### 園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



### 問7 職員の対応について

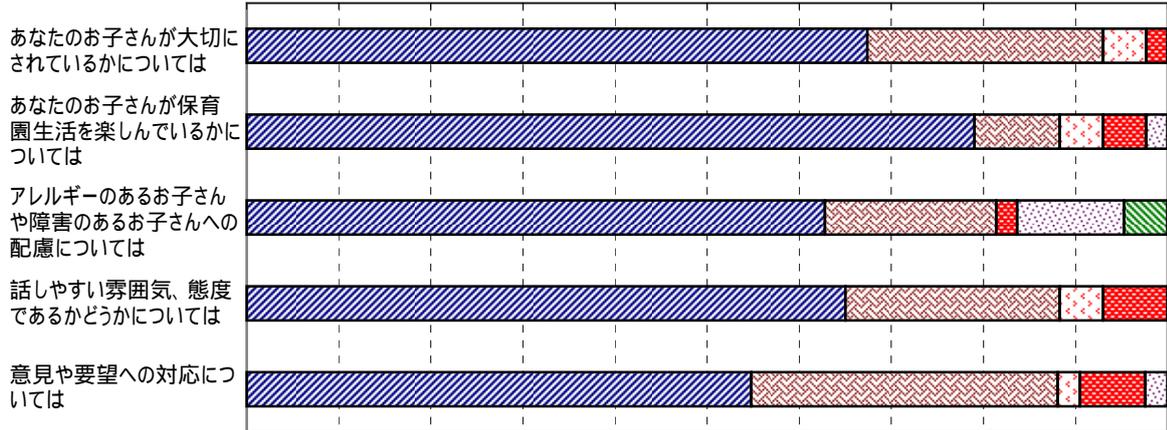
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	67.4	25.6	4.7	2.3	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	79.1	9.3	4.7	4.7	2.3	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	62.8	18.6	0.0	2.3	11.6	4.7	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	65.1	23.3	4.7	7.0	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	54.8	33.3	2.4	7.1	2.4	0.0	100

#### 職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

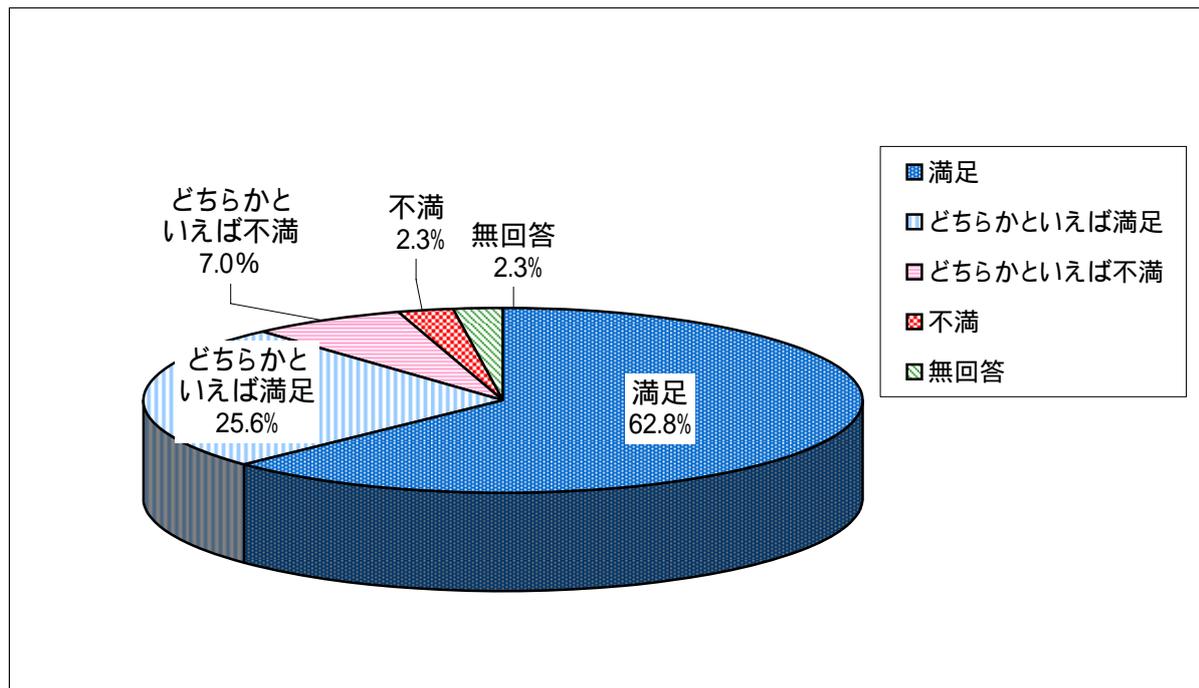
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



### 問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	62.8	25.6	7.0	2.3	2.3	100



## 利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 1月16日（水）8：30～18：00 1月21日（月）9：00～17：00

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

### 0歳児クラス

0歳児保育室は、可動式の壁で仕切られた二つの保育室を、機能別に分けて使っています。食事や午睡、リズムや運動遊びなどに使う部屋と、おむつ替え、絵本、ままごとやブロック遊びなどの部屋です。

朝のおやつを食べ終わった子どもから部屋を移動します。おむつを替えてもらい、活動が始まります。

音楽に合わせた体操では、腕を回したり、体を揺らしたりして機嫌よく体を動かします。座って見ている子どももいますが、保育士は無理にさせることはしません。

ままごと遊びでは、子どもたちは落ち着いて座り、野菜を切る、皿に盛る、ジュースを飲む真似などを行っています。初めて「ありがとう」の言葉がでた子どもがいて、保育士同士で子どもたちの言葉が増えていることを喜び合っていました。

滑り台やトンネルくぐりができる遊具やマットを使った運動遊びでは、子ども4人ずつ交代で行い、遊具には保育士2人がついて安全を守っています。マットは一步登って降りる、を楽しそうに繰り返します。全員終わると、遊具で遊びたい身振りをしていた子どもたちから、もう一度遊びました。

離乳食ではスプーンやフォークを使って自分で食べたり、手づかみ食べをしたり、保育士に食べさせてもらったりしています。保育士はご飯をラップで丸めて手づかみ食べをしやすくしたり、よく噛むことを伝えたり、自分で食べることをすすめたりしながら、個々の子どものペースに合わせて援助していました。

### 1歳児クラス

子どもたちはエプロンをしてイスに座っています。手遊び歌で朝の挨拶やおやつの挨拶をするときは、みんな保育士の手振りを真似ています。おやつを食べ終わると、タオルやエプロンを持って荷物棚にいき、保育士に手伝ってもらいながら、子どもが片づけます。その後、トイレに順番に座ります。保育士はそばについて一人一人、確認しています。トイレが終わると、履きやすく広げている紙パンツやズボンを自分で履こうとする子どもがたくさんいます。保育士は「上手」など声掛けをしながら様子を見守り、さりげなく援助しています。

近くの公園への散歩では、バギーに乗ったり保育士と手をつないで歩いたりして、道の左側に寄ってゆっくり進みます。途中子どもたちは「ゆき」「トラック」「バス」など見えたものを言ったり、車に手を振ったりしています。保育士は「まだあるね」「ほんとだね」など、一つ一つの言葉に応じています。歩いている子どもたちが何か見たい時や触りたい時、靴を直す時などには、全員で止まって待ちます。

公園では、最初に滑り台に向かう子どもが多く、保育士の声掛けで並んで順番に遊びます。他には、走り回ったり、雪が少し残っている植栽周辺を歩いたり、木の実や小枝を拾ったりして遊んでいます。保育士は状況に合わせて移動し、安全に配慮した声掛けや援助をしています。ヘリコプターの音や鳥の鳴き声が聞こえると、保育士と一緒に空を見上げて探し、「どこー」「あそこいたね」などの声をあげています。日々の活動の中で、好奇心が育っている様子が伺えました。

### 2歳児クラス

朝の会で挨拶してから保育士が点呼すると、子どもたちは「はい」と手を挙げて返事をします。保育士は「とても上手に言えました。素敵」など、一人一人を褒めています。その後、CDの音楽に合わせて、両手を広げて体をコマのように回す運動や子ども向けにアレンジした阿波踊りで、保育士や英語遊びの講師と一緒に、元気いっぱい全身を動かしました。

英語遊びの時間、講師は全部英語で話しています。アルファベットやキラキラ星などの歌では、初めは講師と一緒に歌い、次に CD の音楽にあわせ、手をたたき、体を揺らす、足踏みするなど体を動かしながら歌います。講師は歌が終わる度に寝ていて、子どもたちは「やったー」と喜んでいます。次は一転して、講師の合図で静かに集まって座ります。講師がパペット人形を一人一人の顔に順に寄せて英語で挨拶をすると、子どもは声をあげて喜んでいます。子どもたちが飽きないで集中できるように工夫しているのが分かります。絵などを使った歌や遊びもみんな夢中になって楽しんでいて、英語遊びを嫌がる子どもはいませんでした。

その後、屋上の園庭で滑り台をしたり、残雪を触ったりして遊びました。2 歳児は 5 階の屋上への行き帰りに階段を使っていて、子どもたちは元気に上り下りしています。屋上から戻ると、靴下を自分で片づけてから、トイレです。その後、腕まくりしてから泡立てた石鹸で丁寧に手を洗い、うがいをしていました。

### 3 歳児クラス

朝の時間、向かい合う 3・4 歳児室の廊下側スライドドアを全部開けて、広くつなげて使っています。3~5 歳児と一緒に、一人や 2、3 人のグループでそれぞれ、ままごとセットやブロック、粘土での遊びや絵本を読むなどして過ごしています。保育士が電子ピアノを弾いて“先生おはよう、みなさんおはよう”と歌い始めると、子どもたちは遊びをやめ、おもちゃなどを片付けます。朝の会の後に、クラスごとの活動です。

3 歳児は散歩です。保育士が声をかけると、子どもたちは靴下や上着、帽子を身に着けます。4 歳児室の園庭側の掃出し窓から出て、靴を履き、二人ずつ手をつなぎます。門で“雪が残っているので、滑ります。雪の上に乗らないように気をつけてね”と保育士が伝えてから出発です。子どもたちはお互いにおしゃべりしながら歩き、公園に着きました。

保育士が公園で遊ぶ時の決まりを伝えてから、遊びます。一斉にブランコや滑り台、砂場に向かいます。ブランコでは、保育士に押ししてもらって交替して遊んでいます。一人で上手に漕げる子どももいます。滑り台では、滑り終わりのところに子どもたちが覆いかぶさりトンネルのようにした中を、仰向けになって滑り降りる遊びを夢中になってしています。保育士はそばについて遊びを手伝いながら、安全を守っています。

帰りに近隣中学校に沿う道を通りました。校庭の隅にある残雪の形を、2、3 人の子どもたちが動物に見立て「ヘビがいる」「小さいヘビ」「ワニ」「ゾウだよ」など、次々に言います。校庭にいる中学生が声をかけてくれて、子どもたちは手を振って挨拶していました。

### 4 歳児クラス

子ども 2、3 人ずつ交替で、一年間に描いた自分の絵画作品をまとめています。十枚くらいを重ねて、保育士が穴を二つあけ、子どもはそこに紐を通して結んでいます。別のテーブルでは、豆まきの枀の製作日に休んでいた子どもたちが牛乳パックを使った製作をしています。保育士が色紙を切って渡し、子どもが牛乳パックにのりで貼ります。子どもがやりづらい箇所では、保育士が手助けをしています。製作をしていない子どもたちは、絵本を読んだり、ブロックで遊んだりして過ごしています。保育士がついて、絵カードなどで遊ぶ子どもたちもいます。

その後、上着や靴下、帽子を身につけ屋上の園庭に行きます。エレベーターの中では床に座ります。屋上に着いて靴を履き、雪が残っているので走らないこと、滑り台や「たいこばし」(大型雲梯)を使わないことを保育士が伝えてから遊びます。雪を丸めて投げたり、凍った雪の片を手に取り「ご飯です」「魚です」と見立てたり、滑り台の下に入ったりしていました。

給食は 5 歳児の保育室で、テーブルに 4、5 歳児が混ざって座り、一緒に食べています。子どもたちは会話を楽しんでいて、和やかな雰囲気です。調査員がついたテーブルで魚は好きか聞くと、みんな声をそろえて「好き」と答えました。お代わりする子どもが多く、ゆっくり食べる子どももほとんど完食しています。決まった時間に食べ終わらない子どもたちは、保育士にせかされることなく、テーブルに残って食べていました。

## 5歳児クラス

午前中に「味噌作り」がありました。始める前に、みんなで老人ホームのリビングへ行きます。「今日、お味噌づくりをやります。見に来てください」と伝えると、お年寄りたちは笑顔で聞いています。保育室に戻り準備です。エプロンと三角巾を着け、手を洗うと、保育士が消毒用アルコールスプレーをかけます。テーブルの向きをどうするか保育士が子どもに聞くと、お年寄りに見やすい向きを考えて答えています。

保育士が手順を説明して、始まりです。煮た大豆を大きなビニール袋に入れ、すりこぎや水を入れたペットボトルで潰します。「袋、破れないかな」と子どもが言うと、保育士はすぐに袋を2重にします。うまく潰れず袋の上から揉みます。子どもたちは「機械より手だね」などと話しながら楽しんでいきます。見ていたお年寄りたちに袋を見せると、「匂いを嗅ぐといい」と教えてくれました。保育士が袋を開け、みんなで順番に匂いを嗅ぎます。「納豆みたい」と言う子どももいます。ボウルに潰れた豆と麹、塩を入れ、子どもたちが素手で力を込めてかき混ぜます。桶に入れてシートを被せてから、保育士が夏休みの味噌汁パーティまで押さえておくにはどうするか、子どもたちに問いかけます。「僕、押している」と答える子どもがいますが「学校が始ったらどうするの」と聞かれて困っています。保育士が漬け物石を運んできて、子どもたちに持たせて重さを感じてもらってから、桶の上に乗せました。その後、桶を真ん中にして、お年寄りも一緒に記念撮影をしました。

## 避難訓練の様子

朝の時間に、本園での避難訓練の様子を観察しました。職員が笛を鳴らし、各保育室と調理室に「事務所より火事発生です、ロビーの方へ避難してください」と知らせます。この日は残雪のため、外には出ずに同じ建物にある老人ホームのロビーに避難します。保育士と子どもたちはすぐに集まり移動を始めます。子どもは片手を口にあてています。走る子どもはいません。泣き出した子どもは保育士が抱っこしています。送りに来ていた保護者2名も避難訓練に参加しています。「もう大丈夫です、火が消えました」と言われるまで、子どもたちは手を口にあてたまま保育士と玄関側に寄って座っていました。

そのままロビーで保育士と園長が話をします。今日は静かに速やかに、2分で移動出来たことなどを褒め、「いつでも上手に避難してね」と伝えます。子どもたちは静かに集中して話を聞いていました。

## まとめ

- ・ 子どもたちは、遊びや活動の中で興味を持った様々なことを、すぐに言葉に出して表現しています。その一つ一つに保育士は応じていて、信頼関係が築かれています。
- ・ 保育士は、危険なことやしてはいけないことを子どもが納得できるように丁寧に伝えています。
- ・ 子どもたちは、保育士が話をするときには集中して聞くことができます。
- ・ 乳児では、個々のペースに合わせてゆったりと過ごしています。保育士は子どもが自分でしたいことは、環境を整えてそばで見守るなどしてから、さりげなく援助しています。
- ・ 幼児では、保育士は意図的に問いかけをして子どもが考えられるようにしています。日常的に、子どもの発想や意見を保育に取り入れています。

## 事業者コメント

今回の第三者評価受審は、開園してから 4 年間、試行錯誤をしながらも夢中で行ってきた保育を、職員ひとりひとりが内外からじっくり見直すことができた本当によい機会になりました。同時に、こどもたち、保護者、地域から、保育園そして保育者に求められていることを、改めて確認することもできたと思います。

保護者の皆様には、保護者アンケートのご協力をいただき、忌憚のないご意見をお寄せ下さったことに感謝いたします。このような(普段では)声に出されない声があることを意識しながら保育園運営をしていく必要性を感じております。

評価機関の方々には、園としての思いや、職員の思いを丁寧にくみ取ってくださり、言葉にしてくださいました。そのことは、職員の安心や励みにつながり、明日に向けてのエネルギーにもなります。ありがとうございました。

この受審をきっかけにして、現時点での園の強みと課題が明確になりました。

5 年目を迎え、園の強みはさらに生かしていき、また課題については職員全員で改善に取り組んでいくことが、こどもたち・保護者の幸せにつながり、さらに働いている職員の幸せにもつながることと信じて、毎日の保育に取り組んでまいります。

さくらの郷みらい保育園  
園長 飯野 慰子



～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 第2事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL : 045-222-6501

FAX : 045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>

---